

# 沖縄の「模合（もあい）」

子ども青少年局企画調整課企画調整係長 池上 省吾

「模合（もあい）」とは、複数の個人がグループを組織して、毎月集まって一定のお金を出し合い、ほしい人から順に集まったお金を取っていくという助け合いのシステムで、沖縄に昔からある「人と人のつながり」の文化です。

例えば、10人のグループが1人5千円で「もあい」を行う場合、今月はAさんが5万円を受け取り、来月はBさんが5万円を受け取るという感じで、10ヶ月間で一巡します。

沖縄では、この「もあい」というシステムが、昔から島中に浸透しています。日本本土では、無尽（むじん）などといった言葉が残っているようですが、沖縄では、大部分の県民が何らかの「もあい」に参加しているといってもいいほど、ポピュラーなものです。

沖縄で「もあい」が始まった背景としては、戦後の金融市場の整備の遅れが一因といわれていますが、現在では、金銭的な制度というよりも、コミュニケーションやネットワークづくりのためのツールとして機能しています。

職場や同級生、趣味の仲間、PTAなど、いろいろな場所で様々な「もあい」が開催されています。

このようなシステムが現在も続いているのは、もともと、沖縄が血縁や知人との結びつきが非常に強いヨコ社会であり、食べ物や生活用品を援助してもらうようなことは日常茶飯事で、何か困ったことがあれば世話をしてくれる相互扶助の習慣があったためだといわれています。

沖縄では、このような相互扶助の精神を「ユイマール」と呼んでいます。沖縄からの移住民が多く住むハワイや南米にも、「もあい」文化が残っており、ユイマール精神が受け継がれています。

沖縄出身の私は、現在、2つの「もあい」に入っています。特段、お金の困っているという訳ではなく、仲の良い友人や異業種との交流を図るために参加しています。

ひとつは、高校の仲の良い同級生が社会人になって作ったもので、今年18年目になります。沖縄の地元で、月に1回行われているので、私は里帰りの時に参加したり、普段はメール等でやりとりしています。なお、毎月の「もあい」代は振り込みです。ただ飲んで、昔話をする時があれば、知り合いの冠婚葬祭や地域の祭り、学校行事などについて話し合ったり、実際に活動したりします。

もうひとつは、都内近郊に住む沖縄出身者や沖縄好き

の人たちによる「もあい」で、14年目になります。この「もあい」は、加入、脱退が基本的に自由なので、帰沖した人や地方に転勤になった人などを含め、これまでに30人くらいのメンバーがいます。遠くにいても、メーリングリスト等により、メンバー全員での情報交換は続いています。

表 私が入っている「もあい」の概要

	高校もあい	東京もあい
メンバー	高校の同級生	都内近郊在住の沖縄好きな人
人数	13名（固定）	11名（平成23年度）
場所	沖縄	東京
設立	平成6年	平成10年
頻度	月1回	月1回
特徴	地域の祭り、学校行事への協力	異業種交流
その他	年1～2回里帰り時に参加 普段はメール等でやりとり	のべ参加約30名 県出身者が約7割

「もあい」は、地域によっては父から子へ、子から孫へと世代を変え、100年近く続いているところもあるそうです。

特に、冠婚葬祭は、「もあい」力を発揮する場となっています。喪主や新郎新婦に変わって、企画、準備、進行、片付けなどを積極的に（勝手に）行い、事がいつのまにか滞りなく終わっていることがあります。

また、最近では、定期的集まりだけでなく、公園や海岸の清掃、募金活動、学校への協力など、社会活動を行っている「もあい」が増えています。さらに、複数のもあい同士が互いに協力しあって、新たな活動を行っているケースもあります。

昨年3月の東日本大震災では、復興支援のため、『「とどけよう模合のココロ」プロジェクト』という運動が立ち上がり、被災地へ義援金を送ったという例がありました。

このような動きは、特に若い世代の「もあい」で増えており、助け合いの精神が、内側だけでなく外側にも向き始めていると思います。

ユイマール（相互扶助）、イチャリバチョーデー（出会えばみな兄弟）という精神が、「もあい」というツールを介して、地域・社会活動にも貢献していると思います。